

いきいき健康術 第82回

『マムシ咬傷』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。

今回の担当は、国保京丹波町病院和知診療所の庄林智所長。これからの季節、農作業やキャンプなどで気をつけないといけないマムシに関する話です。

五～七月の田植えや草刈りの時期、九～十月の稲刈りの時期に、「へじにかまれて急に腫れてきた」といえば、通常マムシを考えて治療します。というのも日本に住む毒を持つへじといえば、マムシ、ヤマカガシ、ハブの三種のみで、ヤマカガシはかまれてもすぐには腫れない特徴があり、ハブは沖縄地方にしかないへじだからです。

二本の平行する牙痕(かんだ痕)を認める場合は、マムシ咬傷を強く疑います。マムシ毒が注入されると数分以内に腫れと痛みを認め、周囲に皮下出血が出現します。手指の先端をかまれた場合には二～三時間で手の甲がパンパンに腫れますが、この派手な腫れ具合がマムシ咬傷の特徴です。

一方、草むらの中で何かにかまれた(刺された)が、へじかどうかわからないという場合は、へじ毒が注入されたか否かについての判断は、かんだ傷痕、症状(腫れや痛み)、全身状態などから判断せざるを得ませんが、三十分経っても腫れや痛みがなければマムシ咬傷は否定的で、虫刺されなどが疑われます。

マムシ咬傷は、現在の日本でも年間十人弱が死亡するほど、重篤化した際は致死的です。局所の派手



所長 庄林 智 先生 (国保京丹波町病院和知診療所)

な腫れや皮下出血は、マムシ毒が引き起こしているもので、著しい組織傷害により高CPK、高LDH血症に至ります。

キャンプ場などのかまれた現場での応急処置としては、へじ毒が体内に拡がることを防ぐことが最も重要です。局所を安静に保ち、かまれた部位から体の中心へ二関節内側を駆血(しぼる)するのが最も効果的です。しばらくながら速やかに救急病院を受診してください。

お知らせ

和知診療所では、訪問診療を火曜日、水曜日の午後に行っています。また、訪問看護にいつでも随時行っていますのでご相談ください。

☎ 84-11112